

2011年 11月 7日

## アジア国立公園会議準備会合 議長総括（環境省仮訳）

キム・ソン・イル 教授  
熊谷 嘉隆 教授

### 1. 背景

アジアの多くの国々は、自然環境を維持しつつ経済的発展を達成するための多大な努力を続けているが経済的発展と自然資源の保全の両立は多くの困難を伴う。保護地域はそれら経済的発展に影響を受ける一方で、発展に伴う課題に対し多大な貢献ができる可能性も有している。アジアは特筆すべき多様性を有する広範な地域であり、保全と発展の両立に向けて多くの革新的な取組を実施している。このような状況の下、名古屋で開催された生物多様性条約第 10 回締約国会議及び愛知目標や、WCPA の組織がアジア全体で一つに統合されたことなどを踏まえ、アジア国立公園会議準備会合が、2011年 11月 3日から 7日にかけて東京で開催された。

18 の国/地域の代表者及び、IUCN、研究機関、援助機関、NGO からの専門家などの 70 名の参加者は、主催者である IUCN、WCPA、JICA、とりわけ日本の環境省の尽力に深謝するものである。

### 3. アジアの保護地域に関する議論

会合の参加者は、各国政府、NGO、研究機関、援助機関、IUCN/WCPA から招聘された。会合では、アジア地域の保護地域に関する考察がなされ、その課題と解決方法における多様さと共通項を明らかにした。参加者は、アジアの人々は自然に対して文化的・精神的価値を求めているという共通認識を持った。また、多くの国において、保護地域の管理運営は複数の政府機関に所管がまたがるなど複雑な形体となりがちであることから、それらの機関の間での調整が必要となることが認識された。さらに、アジア地域全体での多くの重要な活動や取組を明らかにするとともに、2013年にアジア国立公園会議を開催することを全会一致で支持した。

### 3. アジア国立公園会議に向けて

#### (1) 目的

アジア国立公園会議は次のことを目的とする。：

- アジアの保護地域における成功例を世界に紹介するとともに、その価値を示し、多様な関係者との関係を深めるとともに、支持の拡大に資する。
- アジア地域の経験を共有するとともに、世界全体への貢献を推進する。
- アジアの保護地域のための行動指針を定め、愛知目標と保護地域作業計画の目的の達成に向けた活動を推進する。
- 問題解決能力など、アジアの保護地域関係者の能力向上を推進する。

- 2014年の世界国立公園会議等の関連する地域レベルや世界規模の会合において、アジアの視点・意見を発信する。

## (2) 提案されたテーマ

多くの参加者が、「つながり」がアジア地域の経験と課題を示す良いテーマであると考えた。ここでの「つながり」とは、「人と自然のつながり」、「文化的・精神的な価値と自然の価値とのつながり」、「保護地域とより広域の自然景観（陸域・海域）のつながり」などが含まれる。

## (3) 提案された成果

- 愛知目標及び保護地域作業計画の達成、全アジア保護地域ネットワークの推進、国境をまたがる保護地域や姉妹公園締結の推進、情報共有などに向けたパートナーシップ
- 地域間協力の活性化、管理運営の改善、保護と発展の両立に向けたアジア保護地域憲章
- 愛知目標達成に向けた進捗状況、法制度や政策の分析、適正な管理がなされている保護地域の確認のための仕組と管理有効性の評価を含むアジアの保護地域についての現状並びに進捗状況の報告書
- 自然災害への対応、災害リスクの軽減、人と野生生物の軋轢、気候変動への適応、保全に対するインセンティブ（エコツーリズム等）、二次的自然地域の保全（SATOYAMAイニシアティブ等）などの課題に対する解決策を提供するためのアジア地域の優良事例集

## (4) 主催者

近年示されてきた日本のリーダーシップを鑑み、参加者は日本政府（環境省）に対し、第一回アジア国立公園会議を2013年に日本で開催することを検討するよう強く要請した。また、それは、三陸復興国立公園を通じて保護地域が復興に果たす役割や、地域社会との協働による効果的な国立公園管理のあり方などを日本が示す良い機会であることが認識された。

参加者は、また、インドネシア政府からの貢献への表明を歓迎するとともに、アジア地域の他の国々及びIUCN等の団体に対して、アジア国立公園会議の準備に向けた技術や資金などについて協力を求めた。

さらに、関係者からの幅広く開かれた参画を確保しつつアジア国立公園会議の準備及び実行を担うための運営委員会を立ち上げることについての合意が得られた。